



ある。しかし、被害は少なく、今度は昼間の攻撃があるとの噂があったという。ある人の証言によると、8月8日の朝9時30分頃、学徒動員の場所黒崎城山地区に向かうとき、民家の屋根すれすれに飛びながら、地上に機銃掃射する米軍の戦闘機数機に遭遇した。その後、B29の大編隊がきた。

それは、八幡大空襲と呼ばれるもので、終戦1週間前の事だった。米軍の記録によるとB29が245機（内24機は重油散布機）・戦闘機160機が参加し、三波にわたり黒崎、尾倉・西本町、枝光・中央町周辺を攻撃した。10時頃黒崎周辺から始まり、最終は中央町周辺まで。時間にしてたった約35分間の爆撃で死者2050人、被災戸数約14000戸の被害がでた。西鉄電車路線は、空襲と同時に一時全線がストップしたが、夕方には黒崎～大蔵間を除く折尾～黒崎間、大蔵～門司東間は折り返し運転が可能になった。黒崎～大蔵間の復旧は8月末までかかった。

帰り路は叔父が付き添ってくれた。叔父の手に引かれるか、時には肩車で電車に乗ったことは記憶にない。

以上のことを参考にして、ある仮説を立ててみた。

現在、JR中間駅からJR門司駅までは1時間あれば十分に行ける。当時国鉄の切符は簡単に手に入らなかったと思う。折尾から西鉄電車で行くことを選んだと思う。折尾まで歩くことは三歳児でも1時間少しあれば可能だ。朝7時に出て西鉄折尾駅から路面電車に8時半に乗れば、黒崎の爆撃開始の10時には中央町は通過している。その後、どこかの駅で門司行を待つ間、燃えている山か家を見たのだろう（小倉市の西方の一部は被災している）。叔父の背中越しに見た、電車路両側の瓦礫の山、丸焼けになった電車の残骸は中央町の付近であったのか。（ずっと門司市街の光景だと思っていた）

西本町付近でストップした電車の運転士・車掌・乗客等は最も安全と言われていた近くの伊藤山防空壕に避難した。不幸なことにこの防空壕に入った人のほぼ全員300人が亡くなっている。防空壕に入れなかった多くの人が助かった。

自分たちも、朝出発が少し遅れていればどうなっていたか。母はこのようなことを詳しく話をしなかった。理由として空襲の中を幼子二人を連れて門司まで来た33歳の母は、姉夫婦からこっぴどく叱られたのではと思う。母は親父には留守中、門司に行ったこのことを話さなかったのでは。

結論として、門司に向かうときは中央町から少し。帰りは大蔵から黒崎まで位しか歩いてないのではないか。

八幡の大空襲と小倉市街の曇天との因果関係等も話題になっているが、真相はまだはっきりしていない。

3歳で終わっていてもおかしくない我が人生、大事にしたいと思っている。

参考図書：郷土史・八幡空爆 III 八幡焼亡「20・8・8」

日本帝国の降伏決断を迫った無差別大空爆 ――黒崎郷土史会 楮原茂樹 書

## 河童そして河内貯水池

瓦口 龍

河内貯水池在の河童から連絡が途絶えてもう一ヶ月になる。鳥兜酒を持って来るというので楽しみにしているのだが。恐らく猪の猟期で猟犬が右往左往して出られないのだろう。

河内と言えば、奥まった眼鏡橋の対岸に樋口軒という料理旅館があった。

春は桜に始まり、夏、秋と一年を通して繁盛していた。鯉こく、鯉の洗い、鰻、スッポンと料理も人気があって、何度か利用したことがある。会社で、家族で、友人達と。

会社の忘年会を当時の若戸スポールで、30人程でやっていた時、8時頃に樋口軒のバスが、若戸スポールに横づけされ、“お迎えにあがりました”と。

若戸スポールでの忘年会を早々に終えて、樋口軒に向かう羽目となった。一日の内に忘年会を二度したのは、後にも先にもこれが初めてだった。何もかも取りしきるワンマン社長のチョンボだった。

ある年の夏も終る頃、仕事を終えて帰ると家の中は無人、当時の私にとってこれは無上の喜び。風呂もそこそこに飲みに出る。

翌日も帰ってみると誰も居ない、又又ラッキーと鍛冶町、堺町へ。

三日続いた時は少し心配になったが、独立心旺盛、天は人の上に人を造らず、ひとりでも生きて行ける。わが郷土の偉人福沢諭吉翁のお言葉。風呂からあがって外出の準備を始めた時、電話が鳴った。

「樋口軒です。奥様とお子さま二人、三日前からお泊りいただいています」と、樋口社長。

親子三人、湖を見つめて三日間、贅沢させられて良かった。と、身震いしたことも遠い昔のことだ。

## 私と俳句

皿井 にこ

俳句をはじめて二十年になる。

若いころから俳句には惹かれていた。

退職後、お茶の先生から勧められて河野白村先生の句会に入会した。

その時の先生の教えが今も私の俳句観となって生きている。

一、 有季定型、旧かなづかい

二、 平明、有情、そして新

平凡であっては困るが平明な中に情感のある句をめざすようにとの教えであった。

新しさは、「人誌」に入って勉強するようにとのことで、進藤一考主宰の俳誌「人」に入会した。

以来何年たっても、教えのようにはいかないが挫折することなく楽しく続けている。

自句自解

## 流星や母の见ているものを見る にこ

ここ何年か前は、夫と母の入退院の繰り返りで、夫の病院を出て母の病院へと向かう日が続いた。

特に母は百歳を超していたので日に一度は会わずにいらなくて、毎日通いつめた。

面会時間終了のぎりぎりまでいて、手をふりながら別れる。バスを待ちつつ見上げる空に流星が尾を引いた。

命の灯は消えかかっていたが、いつも「ありがとう」と言ってはにっこりしてくれた母。その母も百四歳でこの世を去った。

今、夫と母が先の世で私をみていてくれる気がする。

この流れ星の句を詠んだころは、主人もまだ生きていたんだなあと思うと切ない。何かに取り憑かれたような日々であった。

## 拝啓安倍総理大臣様

諦念

今回から、タイトル拝啓〇〇様で1年間通そうと決めた。理由は決めれば、後はメモを残せば楽ができる、ただそれだけですがお付き合い宜しくお願いします。過激なことは戯言と寛大なお許しを。

某政権の3年におよぶ真昼の暗黒を取り戻すべく日夜の頑張り敬服します。あまりにも悪かったから、やる事なす事が新鮮に見えるのは私だけではないだろう。あの政権がなかったら、与えなければよかった、の言葉はよく聞く。支持率が10%に満たないのも当然であろう。また、仲間割れしながら、もがいている姿は本当に日本をよくするためでなく、自分の食い扶持確保としか思えない。もう、耳を貸す必要はありません、思う存分日本の舵取り宜しくお願いします。

円安で輸出と輸入（原油とLNGの比率が高い）のバランス、デフレ脱却等々問題は山積みされていますが任せた以上は頑張ってください。3年にもおよぶ無策より動いての結果は誰も批判はしないでしょう、出来ないでしょう。

川柳で、「男気は元総理より元所長」とあった。当然、K元総理と亡くなられた東電のY所長のことである。当時の動きが明らかにされた、K元総理お面の皮の厚さは如何ほど？面の皮の厚さを測っていただければと思っています。

また、開いた口が塞がらないH元総理の蟹居もしくは国外追放も宜しくです。

ある市長が原発再稼働批判を堂々と、ある式典でおっしゃいました。これが真逆であった

ならば、集中砲火を受けていたのでは。ここも、ちょっと解決していただければ。

結果がよければそれなりに、悪ければそれ以上に叩かれることを承知の施策と理解しています。女性閣僚問題、政治資金問題で世間が騒いでいますが世の中を明るくするのが先決です。政策を堂々と推し進めてください。一党政権でないとクリア出来ない現状です。

また、思う存分日本丸の面舵を切ってください。取り舵はダメです。

「さあ、一杯呑んで寝るとするか」

## 立冬や一升瓶はどこ行った

## 囲碁とお酒⑦

上田 喜久雄

10月18日、「2014西部ガス杯争奪北九州市民囲碁まつり」に参加した。チームは残念ながら全敗だったが私自身は2勝2敗であった。悔やまれる碁もあったが初めての出場としてはこんなところだろうか。「来年も出よう」、ということになったので、それだけでも大きな成果である。

今、戸畑の中本町商店街の真ん中で縁台将棋が盛んである。同級生のM君がお世話をしているので、「碁はしないのか」、と問うと、「碁盤も一面あるので打つなら打っていいぞ」ということになった。早速年会費500円を払って仲間に入れて貰った。幸か不幸か、そこで碁を打った日は必ず‘おお乃’直行である。縁台囲碁に参加してからまだひと月足らずだが、最近は‘おお乃’が先か‘縁台囲碁’が先か判らなくなってきた。今の心境を詠んだ句がひとつある。

## 今や吾中本町を菊の宿

戸畑駅では今、菊花展の真っ最中である。

## 藝 その世界

鯨飲 酔公

先日、古本屋めぐりをした時に、永六輔の著書「藝 その世界」を入手した。役者、落語家、古今東西のスター達の発言、エピソードを集めた本だがその中で印象に残ったものを。

- ・「色事はきれいさっぱりやるもんだ。出来ねえ時は歯を喰いしばって我慢するものさ」  
「(パリに旅行して、ミロのヴィーナスを見て) 手の切れた女に用はねえ」  
「(同じくパリで何度もアンコールに応じるバレエダンサーに) あの男、同じ事しか出来ねえのか」  
「(ある式典で祝辞を依頼され立ち上がり) めでてェといやァいいんでしょう？  
おめでとうござい」

**十五代市村羽左衛門 (歌舞伎俳優)**

この人は戦前アメリカでフォード自動車工場を見学していて、それだけで勝てる訳がねえと敗戦を予想していたそうです。また、誰に会っても挨拶のフレーズは「やあ、しばらく」。彼にとっては初対面の人間などありえないというスターとしての自信！！

- ・「近頃の撮影所は八百屋になったのか、車が大根を乗せて入ってくる」

**小津安二郎 (映画監督)**

- ・「相手を舞台に引き込む根気」  
「ほろりとさせる温かみ」  
「神経をギクリとさせるセリフ」  
この三つは役者ではなく刑事が自白を引き出す時のコツだそうです(笑)。

・ある歌舞伎役者のところに藤山寛美からの楽屋見舞いがとどいたが、なんとそれは美しい芸者で、衿のところに「楽屋見舞い」と書いてあったそうです。

- ・「芸者というのは行儀作法に奉仕する尼僧たち、客がその匂いだけを楽しむ花束だ」

**ジャン・コクトー (詩人・映画監督)**

- ・大正十二年九月一日 十一時五十八分四十五秒。死者三十万人 傷者百万の関東大震災。  
**水谷八重子 (女優)** 盲腸の手術あとで寝ていたが飛び起きて逃げ出す。  
**八代目坂東三津五郎 (歌舞伎俳優)** 便所にしゃがんでいる時に揺れを感じ、これは吉兆と願い事をかける内に、本当にウンがつく羽目に。  
**榎本健一 (喜劇俳優)** 自宅で逃げてきた人のために炊き出しをつづけた。



六代目尾上菊五郎（歌舞伎俳優） 自家用車を提供して非常用物資配給に協力。

柳家三亀松（落語家） 朝帰りの二日酔の寝入り鼻に叩き起されたのかと思ったら大地震。船で隅田川の上を逃げ回った後で焼け死んだ牛を食ったという。

桜川ぴん助（芸人） 芸者と揺れている間にやってみよう（注：性行為のことです）と実験を敢行。ぴん助曰く、今時のラブホテルのローリング・ベッドだって関東大震災にかなうめえ。

古今亭志ん生（落語家） ドサクサ紛れに酒屋に駆けつけ浴びるほど飲みまくった。

原口さんも地震と大酒飲みにはご注意を。

## 『ばかトーク 5』

櫻木 大祐

### その1「恥からの発明」

ひもじい…

そういえば「ひもじい」って不思議な響き。

早速、語源辞典で調べてみた。

昔の人はお腹が空くことを「脾臓がだるい」と表現し、短く「ひだるい」と言っただろう。しかし、お腹が減っている事をおおっぴらに言うことを恥と感じ、「ひ文字」と濁したとのこと。

「しゃもじ」が「杓子の女房言葉」であることや「かもじ」が「カツラ」であることと似たような発想か？

恥ずかしさをごまかす為の隠語として新しい言葉が生まれてくるなんて、なんか日本人の奥ゆかしさを感じますね。

### その2「橙色の夢」

とある居酒屋。串あげが出てきた。見た目はごく普通。三日月型の食べ物が5粒ほど串に刺さっている。ニンニク？

「大将、何コレ？」

「食べてみてん！」

一口。柔らかな口当たり。そして果汁。

「ミカン…？」

（大将がニヤリ）

そんな夢をみた。久々に見た夢がこんな訳の解らない夢だなんて…  
ボクは二度寝をきめこむ事にした。今日は休みだもの…

久しぶりに甘いモノでも食べようとお菓子売り場へ。シュークリーム、エクレア、チーズケーキ、おはぎ、だんご、ちょうちん大福…

ちょうちん大福？

見た目はただの大福。しかし、何か気になり手にとってみると、薄ぼんやりとオレンジ色に光り始めた。

「何じゃコリヤ…」

裏の説明書きを読む。漢字だらけ…

「ああ…なるほど…」

妙な納得をして、ボクは静かに大福を棚に戻した。

二度も続けて意味不明。

ボクは、起きる事にした。シャワーを浴びコンビニへ。ミックスフルーツと大福を購入。ミカンに衣はついていないし、大福はもちろん光らない。

そんな普通の休日の昼下がり…

その3「ボクの妹はもしや天才なのかもしれない…」

「地上0cmの悪意」「移動するサティアン」「ヘゲログソ・デススメル」「空気環境破壊兵器」「ニオウ様」「ドンハドッゴ(ゴッドハンドの逆=デビルフット)」「ただよう暴力」etc…

我が妹が「櫻木大祐の足の匂い」について表現した言葉の数々である。

こんなにもスラスラと並べ立てられる罵詈雑言に、僕はある種の感動すら覚えた。

「コトバのセンス！」

最終学歴中卒で勉強も読書もロクにしていないクセに何故？

女性のコミュニケーション能力の凄さを思う。

我が妹のこの素晴らしい才能を、何とか世の中に活かさないものかしら…そんな風に兄は思っているのですよ。

その4「北の月」

久々に会った知り合いは妊娠していた。聞くところによると間もなく産まれるらしい。カウンターに座るソイツの背中は痩せぎすだった頃のそれではなく、明らかに母性そのものだった。

「孕む」という言葉を思う。「子」をしっかりと守っているようなその形。母そのものの形。丸さ、柔らかさ、逞しさ、強さ。

僕はソイツの背中に触れる。ソイツは軽く頭を下げる。それで充分。

あんたはスゴいんだぜ！最高にカッコいいよ！

その5「サヨナラは言わない」

昔は一緒によく飲んだよね。仕事終わりに毎日のように飲んで、喋り倒して笑って泣いて、姉弟のように過ごしていたね。



それから暫くして、真面目すぎる君は心と身体の調子を崩して、仕事を辞め長い闘病生活が始まった。

こう見えて結構心配してたんだぜ。「死にたい」とか「どうせ」とか「ゴメン」とかが日に日に増えてきて、ずいぶん長電話したのとか覚えてる？

そんな君が「結婚する事になった」と報告をくれたのが8年前。僕は本当に嬉しかったよ。旦那さんは病気の事を全てわかった上で結婚してくれた優しい人。自分の事のように有り難く思ったよ。旦那さんの男気にむくいるために、出来るだけ電話やメールをしないと約束したよね。

でもさ、最近また電話やメールが君からくるようになったじゃん。アレやめた方がいいと思う。旦那さんに失礼だよ。8年間、共に闘ってきたんだろ？

だからね…

僕はもう、君に絶対連絡しない。かかってきても出ない。サヨナラも言わない。着信拒否だ。

冷たいようだけど旦那さんと共に闘い続けて下さい。君が頼るべきは僕じゃなく旦那さんだ。君は一人じゃないよ。幸せを祈ってる…

コレって「逃げ」？

僕にもわからないんだ…

## 角打ちのトイレ問題

徳永 雅樹

今まで真剣に考えたことがなかった酒屋のトイレ。先日、近所のM酒店で呑んでいた時のこと。初めてのお客(女性)が来店直後に「トイレ貸してください」。店主「うちは家の中だからどこか外でしてきてください」。

側で聞いていた私は、外と言ってもコンビニもスーパーもないのにどうするだろう？うちのトイレを貸してあげようか？そんな心配をしていたら店主が「この先の神社にあるよ」と勧めた。店からは100m位歩くだらう。その女性は暗い夜道を独りで歩いていった。

その間、私は色々考えた。女性は戻って来るだろうか？戻ってきてもトイレがないところで思うように酒を呑めるだろうか？

15分後、女性は戻ってきた。実は、常連の女性はここでトイレを借りている。この日は店内に常連の女性客もいた。もし彼女がトイレに行きたくなったらどうしただらう。

## たかが学生歌、されど……

吉本 光一

東京駅の地下で何十年ぶりかでバツタリ出会った大学時代の友人から、母校のホームカミングデーで「みはるかす」を皆で歌った、と聞いたのがきっかけだった。

「みはるかす」は、親しくしていた同期の友人が入学した年に作曲し、大学が公募・選定した「学生歌」で、もともと曲名はなく、歌いだしの歌詞が愛称で通っている。卒業後は歌ったことも聞いたこともないのに、この一言で半世紀前の歌詞とメロディーが鮮やかに蘇ってきた。

学生歌とは、時代とともに次々と新しい歌が登場して古い歌はその場を譲り渡して消えてゆくもの。いままではその程度の認識だったが、古い歌が孫の世代にまで綿々と歌い継がれていることを知ったとき、この再発見を大事にしなければ、という思いがつのってきた。いままで気が付かずにいたが、その出会いは、じつは卒業論文とともに大学時代の記憶の最上位を占めていたのだ。再来年、2016年には60歳、人間なら還暦を迎える。誕生したその日に歌い、喜びを分かちあった面々が再び集って、一緒に再発見の喜びに浸ることができないか。

### 機械工学科のモーツァルト

彼は素晴らしい音感の持ち主だった。栃木県の旧家の生まれで、幼少時からピアノを習い、ソルフエージュ（楽譜を声で再現する基礎訓練の技法）の個人教授を受けて、その感性を体得した。ピアノや音叉の力を借りずに楽譜が示す音程を的確に声に変えることができ、メロディーを聞いただけで、ト長調か変ホ長調かなどの区別ができた。

あるとき、アメリカのウェストミンスター合唱団のコンサートに行き、プログラムの初めから終わりまで、一度も音程合わせをせずに歌いだすのを聞いて驚異を感じた。日本の合唱団はステージに上がると、まずピアノに合わせて全員が発声し音程を合わせる。ピアノがないときは、指揮者がポケットの音叉を取り出して耳に当てて基準音を示す。彼の音感はずいぶんウェストミンスター並みだ、とだれもが理解しその存在感が増幅した。楽器はおろかLPレコードすら買えなかった私には、まぶしい存在だった。

その大学には、学芸学部（現在の教育人間科学部）に、高名なテナー歌手の奥田良三教授らが指導する音楽科があったが、彼の専攻は音楽とは縁の遠い機械工学だった。電気工学の私とは学科は別だが、一般教育は同じクラスで音楽サークルも一緒だった。サークルで混声四部合唱するときの指揮やピアノ伴奏は音楽科の学生だが、彼はそれに引けをとらぬ力量で、シューマンの「流浪の民」、J. シュトラウスの「ウィーンの森の物語」など難しい曲のパート練習は彼にすぎた。

彼が学生歌の作曲に応募したことを、11月3日の発表当日まで、同じ寮の学生たちも知らなかった。大学の発表は意外づくめだった。まず入選者が音楽科でなく工学部機械工学科だったこと。第二に詩が入選作でなく佳作の作品だったこと。詩は前年に公募・選定がすんでおり、今回はその入選作・佳作の作品に曲を付けるかたちで公募された。入選作に付けた曲は選外となった。

佳作の詩は、前年に入学した学芸学部の女子学生が、締め切り間際にルーズリーフの罫線紙に下書きのように書きつけて投稿したもので、審査の国語教員が「原稿用紙に書くのが常識でしょ」と嘆いたとか。でも、彼は一目で「これしかない」と決め、ピアノも使わずに3時間ほどで曲を書き上げた。その理由を、こう話したのを覚えている。「第一に、五七調の語調が親しみやすく、曲をつけやすい。第二に内容が気宇壮大だ。第三に時代が変わっても左右されない語彙を駆使している」

2人の息がピタリと合ってあれよ、あれよという間に出来上がった学生歌は、機械工学科のモーツアルトの誕生を感じさせた。それから58年、親しみやすく歌いやすいだけでなく、気品があり、いまなお新鮮さを失わないその作品は、彼の予感通り「時代に左右されない」普遍性と魅力を実証するものとなった、と私には思われた。

### 作品の一人歩き——歌は世につれ

60年間にわたり多くの世代に歌い継がれてきた「みはるかす」の価値は、卒業生と在学生全員による再発見に価する。生誕60周年記念行事を、何とかして母校全学の公式の集会に組み込ませたい。その手掛かりを得るために、私は彼と同じ学科の同期生の友人T君に手紙を書いた。10日ほど後、T君から返事がきた。

好事魔多し、は覚悟の上だ。たとえ大学当局や卒業生から邪魔が入っても、1年半の準備期間があるなら乗り越えられるのではないか。そう期待しつつ封を切って、思いがけない事態に目を疑った。いまの「みはるかす」のメロディーは自分の作品と違う、と作曲者が公の場で不満を表明している、という文面なのだ。大学のホームページで流れる曲を聞いて改作に気がついたとか。えっ？ 一体どうなってるのだ！

T君は在学中、グリークラブに属し、いまでもグリーOB合唱団で歌っている。このグリークラブは当時は全国コンクールで早大グリーと覇を競う存在だった。「みはるかす」を学内外に広めたのも同クラブで、いまでも現役・OBがともに歌い継ぎ、ホームページに流れるのもその歌声だ。T君の手紙には改作の経緯が詳しく記されている。それによると、改作は学生歌が選定された直後、曲をグリーのメンバーが男性4部合唱用に編曲したときに起こり、そのヴァージョンがあたかも原曲であるかのように歌い継がれてきた。

手紙には、学生歌の誕生から現在までの歴史をまとめた文献（横浜国立大学生産工学科同窓会会報 Vol. 21）のコピーが添えられ、原曲とグリークラブ編曲版との差異や作詩者と作曲者の話などがそれに収められている。この資料に目を通して驚いたのは、私の記憶に残っているメロディーは、何と原曲でなく、改作版のほうだったことだ。曲の誕生したときから、彼自身のピアノ伴奏で何度も歌ってきた。なのに脳細胞に記録されたのは耳から入った改作版だとは。

両者の差異について、彼のコメントが同文献に記載されている。「原楽譜どおりだと、楽曲の体裁をなしています。作曲の文法に適っているのです。変な歌にならないですみません。編曲ですと下品に聞こえます。下品になることを好まれた結果、作曲原譜よりそちらが（中略）流布されたのだと思います」。

「下品」を彼はとことん嫌った。サークルのLPコンサートの選曲で、だれかが「J. シュトラウスを入れよう」と提案したとき、「J. シュトラウスを入れると、コンサート全体が下品になってしまう」と、言下に退けた。彼の「下品」は歌謡曲・演歌の類を含んでい

ない。その程度の「下品」の範疇なのだが、こだわりようは絶大だ。

今回問題にしたのは、全17小節のうちの1個所。付点8分音譜と16分音譜をつないだ連譜2つを、3連音譜と4分音譜に変えた点だ。原譜通りだと、ユモレスクの冒頭部分や夕空晴れて秋風吹き、のようなスキップ調、ターンタ、ターンタと軽いリズムだが、後者だと、タ、タ、タ、ターンとアクセントの強いリズムとなる。

歌詞を当てると、みはるかす 青海原に のびゆきて 尽きせぬものは 我等が想いのうちの「尽きせぬ」の部分だ。「つーきせーぬもーのは」だったのが「つ、き、せ、ぬー、もーのは」となる。これを下品というかどうかは、極度に個性的な問題だ。

昔、演出家の武智鉄二氏が、新作の初演の舞台がはねたとき、楽屋で述懐した言葉を思い出した。「演出家が自分の作品と言えるのは、初演の舞台だけです。2日目からは手元を離れて、どンドン一人歩きしてゆく」。クラシック音楽にも、似たところがある。「楽譜に忠実に」と説く小澤征爾氏は「それが彼の個性だ」と言われる。

「みはるかす」が誕生し、編曲版ができたとき、彼にいまほどのこだわりはなかったように思う。たかが学生歌、改作の一人歩きは視程外だったか。されど学生歌、人間性、パーソナリティの上に迫る昨今の危機感がこだわりを増幅させるのか。60周年記念セミナーは暗礁に追い込まれた。

#### 戦争放棄の危機——自我の危機

「昔、広島カープが日本シリーズで3連勝した後に4連敗を喫した時の相手、西武のエース・ピッチャーは憎らしかった。いま、ソフトバンクの王貞治・球団会長と並んで写る写真はまるで別人のようだ」と、当地の親しい友人にメールを送ったら、間髪を入れずに「野球を制する人は凄い」と返事が返ってきた。野球道での修行が人を、人格を変えろという暗黙の了解を快く、また嬉しく受け取った。

人間であることの基本原理は自我、アイデンティティであることは、論をまたない。その一方で、環境不適應の原因になるのも同じ自我である。身体組織の免疫系が感染症やがんに対する防御のメカニズムにもアレルギー反応のメカニズムにもなるのと同じだ。自我が環境不適應を起こさないようコントロールする仕組みとして、古来、東西の多くの智慧者が教育や道徳の道を考えだしてきた。しかし、文化や風土と結びついた教育や道徳は、普遍性の点で限界があることも重要な事実だ。

それにひきかえ、スポーツや芸道の修行はずっと普遍性が大きい。修行や稽古でこれらの道に励むことで、自我の一人歩きが抑制され、他人との協調と自己の人格（品格）の高揚の両面で効果があがる。

修行と似て全く異なるものに、軍隊の訓練・演習がある。技量を高める手段という点は共通だが、軍隊の場合、最終目的は身の保全に置かれている。身に危険を及ぼす敵はだれであれ、撃たれる前に倒さねばならない。相手のアイデンティティ、人間性の否定が基本原理である。どんな相手のアイデンティティ、人間性をも尊重する修行とは正反対の方向を向いている。

集団的自衛権など、戦争の放棄を否定する時流は、まさに自我の危機にほかならない。戦場で生命の危機に直面するのは一握りの人かも知れないが、そのとき自我の危機は国民に迫っている。「されど学生歌」の言葉の中に、その認識が流れている。

(注) 学生歌 (横浜国立大学、1956 年)

1. みはるかす 青海原に のびゆきて 尽きせぬものは 我等が想い  
緑濃き丘に登りて 共に語らん 共に学ばん 我が友よ
2. 新しき 世を創るもの 光あり 望みを胸に 我等が道を  
悔いのなきその日その日を 共に進まん 共に学ばん 我が友よ

## 編集後記

☆ロンドンもパリも水道水が「Not For Drinking (飲用不適)」だった48年前、初めて訪れたアフガニスタンの首都カブールでは、ホテルや街角の水道栓の生水を安心して飲むことができました。日本人の水道技術者が滞在して水源ダムや最高レベルの浄水施設を完備してたのです。ソ連の侵攻、内乱、米国の侵攻と長く続いた激動期にも、日本の医療チームが近郊の砂漠地帯で井戸掘りの先頭に立っていた。アフリカの水飢饉の国から世界へと広がるエボラ出血熱ウイルスの脅威を目の当たりにしたいま、「百年後に生きる」と確信して地味な援助に身を投じた先人たちの眼力に目を見張るばかりです。

☆日の出の位置が日に日に東の若戸大橋からウチのベランダに近づき、いま(11月初め)は日影が中天から軒の下をのぞきこむかのようにキッチンの奥を照らします。軒の上に姿が消えると、対岸まで真っ直ぐにLED ランプを敷きつめたように光の帯が海面に伸びて金色の輝きを放ちます。金色の天井の下を泳ぐ魚ってどんな気分やろか。いや、今年は岸壁に釣り人の影がない。水中は魚が寄りつけない猛暑らしい。魚屋の店先に、いつものセダイに代わってロシア産の一夜干しホッケが並んでました。炉端焼きのホッケに熱燗、ホッケは皮まで美味しい。それはそれで乙なのだけど。(ぼんぼん仙)

☆ソフトバンクホークスが日本一になった。初戦で、これは無理と思ったが、二戦目の武田が踏ん張り流れを変え優勝に繋いだ。28日、はらぐちであと3勝に掛けて3升空にした。その甲斐あってか3連勝となった。呑兵衛とはこんなことが嬉しい。

☆「はら閑その23」の発刊日を11日から9日に変更して、若松の「料亭金鍋」で少し?早めの忘年会を兼ねて集まることにした。また、金の鍋で酒が呑める呑める呑めるぞー。

☆新しい年がそこまできている。— 行く年の土産に歳をつけてやり —

「まあ、ゆっくり世間話をしていきませんか。お茶でなくお酒を呑みながら」

投稿をお待ちします。題材、文の長短を問いません。「酒」に縁のある内容であればということなすです。投稿は、はらぐち酒店に預けていただくか、[kei2@bronze.ocn.ne.jp](mailto:kei2@bronze.ocn.ne.jp)へ宜しくお願ひします。

「はらぐち閑話」は、はらぐち酒店HP (<http://homepagel.nifty.com/haraguchi/sake/> もしくは、戸畑はらぐち酒店で検索してください)の「かくうちの部屋」でご覧いただけます。

次回発行は1月10日(12月25日締切り)とします。(今朝の鮭)

はらぐち酒店: 北九州市戸畑区中本町4番19号

電話093-871-2150

[sake-tobata@nifty.com](mailto:sake-tobata@nifty.com)